



Project
みんな
未来を
つくる
米



2025
ノウフク
アワード

準グランプリ
未来を耕す

地域に価値を生み、働く人へ還元し、企業と社会を自然につなぐ。

都市と農と福祉をつなぐ、 次世代の地域共創モデル

ぽかぽかワークス | 愛知県名古屋市
代表 工藤 勉

01 INTRODUCTION

ぽかぽかワークスの紹介



名古屋市中川区 就労継続支援B型事業所

CAPACITY

20

名 定員

在籍 21名

URBAN FARMLAND

9.1

ha 都市農地

名古屋市中川区 ぽかぽかファーム園地群

THREE PILLARS

循環型農業

自然栽培／土の力を活かす

地域連携

福祉・教育・農・行政の橋渡し

体験型ブランディング

参加型イベントで価値を可視化



みどりの里にて、利用者・スタッフ・支援者 ― 共に歩む仲間たち

「ガチ農家」として本気の農業に取り組み、**工賃向上**と**地域課題解決**を両立する。

01 REPRESENTATIVE

PROFILE

代表 工藤 勉

KUDO TSUTOMU

QUALIFICATIONS

- ・認定農業者（個人／法人）
- ・名古屋市農業土木委員（供米田地区）
- ・JA なごや 正組合員
- ・第5次中川区地域福祉活動計画 推進委員

CAREER

2017年より農福連携を開始。名古屋の都市農地にて、**循環型農業・稲作・野菜栽培**を都市の真ん中で展開。

MISSION

「農を通じて、誰もが安心して暮らせる地域づくり」
— 都市での農福共創モデルの確立 —



MOTTO

素直・謙虚・感謝

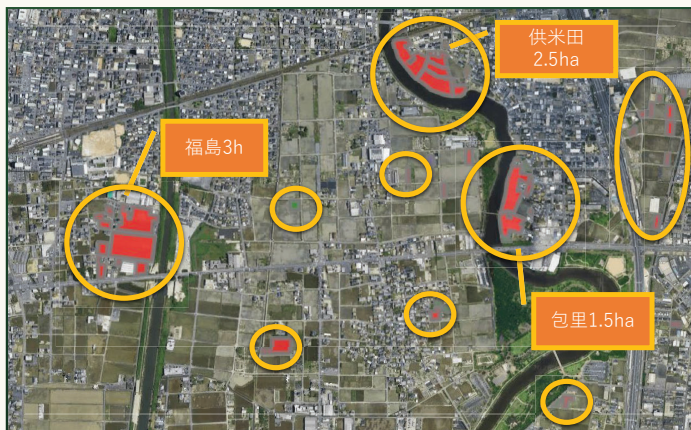
01 BUSINESS AREA & QUALIFICATIONS

ぽかぽかワークス — 名古屋市 中川区 で 営む 農業

都市農地を基盤に、地域計画の担い手として認定された都市農業者。

FOUNDATION 都市のど真ん中で“農”を立てる——名古屋市 中川区を拠点に、3つの公的認定を礎として。

LOCATION — NAKAGAWA WARD, NAGOYA CITY



3 QUALIFICATIONS — PUBLIC RECOGNITION



01 — CERTIFIED FARMER

認定農業者（個人／法人）

農業を主たる生業として国が認める制度——個人と法人の両方で取得済。

STATUS

取得済



02 — REGIONAL PLAN — KEY ACTOR

地域計画の担い手

中川区の地域農業を担う中核経営体として行政に位置付けされた立場。

CORE

中核 経営体



03 — JA NAGOYA — FULL MEMBER

JA なごや 正組合員

農協の議決権を持つ立場——地域の農業者ネットワークの中核に位置する。

NETWORK

正組合員

米を軸に、5つの仕事を育てる

単一作物に依存しない、同心円構造の事業——米を中心に、加工・B2B・場・体験を重ねる。

STRATEGY 多様な商品 = 多様な仕事——利用者一人ひとりに合った役割を用意できる経営構造を目指す。



RICE — THE CENTER OF EVERYTHING

米

FORM 01 体重米

体重で量り売るユニーク販売

FORM 02 自然栽培米

主産米——物語をそのまま届ける

FORM 03 米粉

グルテンフリー／加工品用途



02 CHILI POWDER 一味 唐辛子

自家栽培 × 自家挽きの
オリジナルブレンド。
米と並ぶ看板加工品。



03 B2B — ON DEMAND オーダー 野菜

飲食店等からの
注文ベースで直納。
“顔”の見えるB2B。



04 COMMUNITY FARM 市民農園 の運営

区画を市民に貸し出し、
通年サポートで続く
関わりを育てる。



05 EXPERIENCE DESIGN 農業体験 の企画運営

企業・学校・自治体と
共催で設計——一過性
ではない関係を作る。



5

2025年度 成果ハイライト

事業成長と利用者還元を、数字で証明する。

SALES GROWTH
売上成長

+195 万円

計画を大きく上回って着地

MONTHLY WAGE (avg.)
平均月給

33,067 円

計画 30,000 円を超過

WAGE GROWTH
工賃成長

約150 %

前年 22,148 円 → 33,067 円

AGRICULTURAL REVENUE
収入

2,268 万円

前年比 +24 %

CONTRACT REVENUE
受託収益

98 万円

前年比 約 20 倍

TOTAL PAYROLL
給料総額

555 万円

前年比 +39 %

事業の成長を、働く人への“還元”と地域への“信頼”につなげる。

6

ぽかぽかワークスの 農業 スタイル — ダイバーシティ & インクルージョン

障がい も 経歴 も 年齢 も “動機、 も 違う 人 たち が、同じ 田んぼ に 立つ — たった 一つ の 原則。

PRINCIPLE “支援 する 人 / される 人” の 線 を 引かない — 全員 が 同じ ワンチーム として 田 に 立つ。

ONE — TEAM

ワンチーム

立場 も 動機 も 違う — でも、田 で は 一人

属性

CATEGORY 01 — ATTRIBUTES

受入 を 続けて きた 6 つ の 立場

精神

知的

発達

引きこもり

生活困窮

触法

— 制度 の 区分 で は なく、同じ 田 を 耕す 仲間 として 出会う。

ボランティア

CATEGORY 02 — VOLUNTEERS

通って くる 4 つ の 動機 — 年齢 10 代 ~ 70 代

01 循環型 農業 を 学びたい

02 体 を 動かしたい

03 将来 農業 で 独立 したい

04 自然栽培 で 野菜 を 育てたい

10代

20代

30代

AGE RANGE

40代

50代

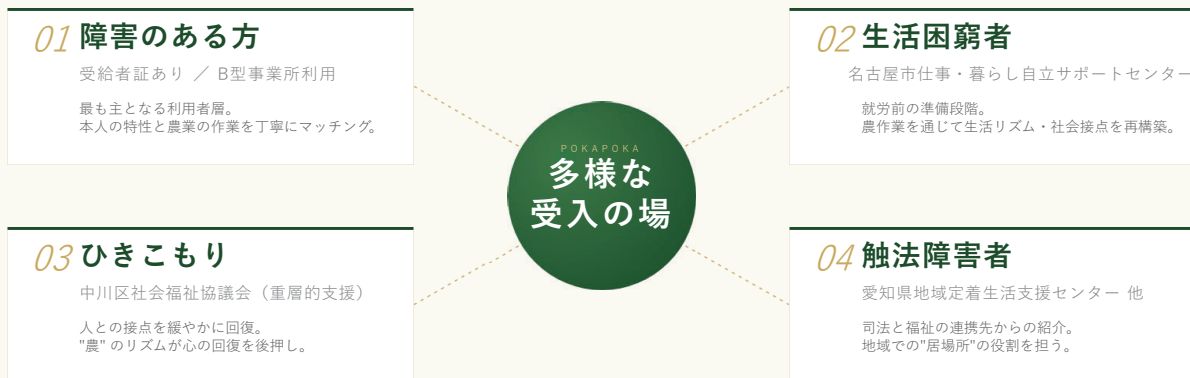
60代

70代

属性 と 動機 を 並べる だけ — 役割 や 序列 を 設けない 田 の 上 で、はじめて “ワンチーム、 が 立ち上がる。

ぽかぽかワークス：多様なメンバー

受け入れの 4 カテゴリー — 制度の隙間を埋める仕組み



福祉制度の"枠"に当てはまらない人にも、"居場所と仕事"を。

9

紹介ルートと連携機関

それぞれの方が、どのルートで私たちにつながるのか

NO.	カテゴリー	紹介ルート / 連携機関	受け入れ形態
01	障害のある方	相談支援事業所 / 区基幹相談支援センター / 福祉施設・特別支援学校・医療機関 等	就労継続支援B型 利用
02	生活困窮者	名古屋市 仕事・暮らし自立サポートセンター	有償ボランティア 登録 ※
03	ひきこもり	中川区社会福祉協議会 重層的支援体制	有償ボランティア 登録 ※
04	触法障害者	愛知県地域定着生活支援センター / 中川区基幹相談支援センター / 相談支援事業所	受給者証 有 → B型 / 無 → ボランティア

※ KEY POLICY

受給者証がない方は、"有償ボランティア"として登録 — 制度の隙間を埋める柔軟な受け入れの仕組み。

10

受入の歩み —— 9年間で11名を、農で受け入れをする

引きこもり・生活困窮・触法 —— 制度の隙間にいる人を、断らない9年間。

PRINCIPLE 受給者証がなくても、受けとめる —— 有償ボランティア扱いで入口を開き、面談を経て卒業（就職）または入所へ。

3 CATEGORIES — TOTAL 19

ANNUAL TIMELINE — 2017~2025



01 — HIKIKOMORI

引きこもり

5名

長期不就労・社会的孤立から、
農を通じて“外に出る”を取り戻す。
2020・2022・2025



02 — HARDSHIP

生活困窮者

9名

経済的困難・居場所喪失 ——
農と食が、生活を立てなおす礎に。
最多 —— 毎年受入



03 — REENTRY

触法者

7名

障害兼触法の方は相談支援事業所を
通じて入所。農が“やり直し”の場になる。
2017・2020・22



HOW WE ACCEPT —— 2 ROUTES

- 受給者証がない方 —— 有償ボランティア扱いで受入 → 面談を経て、卒業（就職）または入所へ。
- 障害兼触法の方 —— 相談支援員からの紹介ルートで受入。

11

【事例】 渡邊一弘さんの場合

引きこもりから「農がライフワーク」に。今後は、その先を目指す。

福

STEP 01

中川区社会福祉協議会からの紹介

- 重層支援事業の一環としてぽかぽかワークスにて農業体験を実施
- 担当者会議の実施

農

STEP 02

ボランティアとして携わる

- 有償ボランティア として1年間農作業を行う。
- 担当者会議の実施
本人の意向を尊重しながら、精神科に通院

先

STEP 03

利用者から職員目指す！

- 2025年4月に利用者として契約
- 他の企業への就職は考えず、ぽかぽかワークスの職員を目指す



12



動画file01: 支援者の皆さんにインタビュー



動画file02: ご本人のナレーションによる自己紹介

【事例】 渡邊一弘さんの場合

引きこもりから「農がライフワーク」に。今後は、その先を目指す。

福 STEP 01 中川区社会福祉協議会からの紹介

- 重層支援事業の一環としてぽかぽかワークスにて農業体験を実施
- 担当者会議の実施



農 STEP 02 ボランティアとして携わる

- 有償ボランティア として1年間農作業を行う。
- 担当者会議の実施
本人の意向を尊重しながら、精神科に通院



先 STEP 03 利用者から職員目指す！

- 2025年4月に利用者として契約
- 他の企業への就職は考えず、ぽかぽかワークスの職員を目指す



15

ぽかぽかワークスを支えるボランティアG — 「縁農活」

個人・グループ・企業・教育機関 — 多層の関わり方を用意

01

月～金 随時

ぽかぽかボランティア

SNS・HPで募集／LINEで連絡
個人で気軽に参加

CHANNEL — LINE



02

月1回

ぽかぽかお助け隊

有機学校給食推進団体と連携
定期的な作業支援

PARTNER — 有機給食



03

随時

有機農業やってみ隊

若者のオーガニック志向グループ
Oグループとも呼ばれる

TARGET — 若者



04

子ども未来基地 みんなで育て葉PJ

Activoで募集 多世代交流のユニバーサル農園

FEATURED — 子ども家族



05

企業 CSR

企業の社会貢献活動

ブライド・トゥー・ビー様
ヤマト運輸様 他

PARTNER — 企業



06

随時

高校生・大学生 インターンシップ

教育機関と連携、進路選択のきっかけに

PARTNER — 学校



関わり方を、選べる。誰でも、いつでも、自分のペースで。

16

ボランティア参加の仕組み

関わりの濃度のグラデーションを、誰にでも開かれた設計に



DESIGN PRINCIPLE

"入口は広く、関わる深さは選べる" — これが、地域に根を張る秘訣。

2 大プロジェクト + 1

地域共創の現場 — 共に育てる、3つの取り組み



SINCE 2020

みんなで未来をつくる米プロジェクト

都市農地を活かした参加型稲作体験。地域を巻き込む5年目の旗艦。



SINCE 2025

子ども未来基地 みんなで育て葉PJ

多世代交流のユニバーサル農園。誰もが参加しやすい"通年の居場所"をつくる。



PLAN 2026

みんなの菜園

名古屋型アーバンファーマーリング構想と連動。担い手・体験・食をつなぐ場。

"米" "葉" "菜" — 育てるテーマで、地域に居場所を編んでいく。

07 PROJECT 01 — TSUKURO-GOME / SINCE 2020

みんなで未来をつくろ米

都市農地を活かした、参加型稲作体験 —— 6年目の旗鑑事業



みんなで
未来を
つくろ米
Project

"泥だらけ" になりながら、
都会の真ん中で、一粒のお米を共に育てる。

SCALE

6年目

2020年スタート / 名古屋市中川区
約1haの都市農地が舞台

PARTICIPANTS

800名 / 年

家族・学区・福祉施設・企業
多世代が1枚の田んぼに集う

RHYTHM

5章の物語

田植え → 夏 → かかし → 稲刈り → 収穫祭
1年を通じて関わり続ける

● 毎年6月 —— 大人も子どもも、泥に入るところから物語は始まる。

ぽかぽかワークス 農を通じて未来を耕す

19

07 PROJECT 01 — ANNUAL CYCLE / 5 SEASONS

つくろ米の1年 —— 季節と共に、関わりが育つ

田植えから収穫祭まで、5つの章 —— 一粒の米が、地域の物語になる。



みんなで
未来を
つくろ米
Project

CHAPTER 01 — JUNE

田植え



家族で泥に入る —— 物語の始まり

約1haの都市農地に、世代を超えた手が並ぶ。
"土と水と苗" だけ —— 五感で田んぼを知る日。

02 — JUL-AUG
生き物調査



ザリガニ捕り・水生生物観察 —— 田んぼは生き物の教室。

03 — SEPTEMBER
かかし作り



家族で工夫を凝らす —— "個性あるかかし。が田を守る。"

04 — OCTOBER
稲刈り



鎌を振り、稲を束ねる —— 「育てた」を手で確かめる。

FINALE — NOVEMBER
収穫祭



かまど炊飯と会食でフィナーレ —— 1年の縁が食卓になる。

6月 田植え → 7-8月 夏 → 9月 かかし → 10月 稲刈り → 11月 収穫祭

ぽかぽかワークス 農を通じて未来を耕す

20

誰もが入れる田んぼ——そして、その先へ

3段階の参加費設計と、ボランティアによるサポート——"入口を開く"ことが、地域の田を守る。



Project
みんなで
未来を
つくろ
米

3-TIER PRICING — DESIGNED TO OPEN



大人
1,000円
子ども
100円

気軽な入口——誰でも参加できる価格



1家族
500円

子ども会・PTA・町内会——
地域単位で田んぼを共有

学区が"地域の田"を持つ仕組み



PARTICIPATION FEE
無料

参加費で"来られない子ども。を、
ぼかぼかの仕事にしない。

入口を開くことが、地域の礎



COMMUNITY SUPPORT

30人

ボランティア

中学生・高校生・大学生・社会人が
運営をサポートし、安心安全を実現



FUTURE GOAL

13トン

年間——学校給食へ供給

子どもが、自分の学校で"自分の
米。を食べる

入口を開くこと——価格で排除しない田んぼが、地域と福祉を一枚に縫う。

21

子ども未来基地 みんなでそだて葉プロジェクト

多世代交流のユニバーサル農園——"通年の居場所"を地域につくる



START
開始年

2025

年～始動初年度

PARTICIPATION FEE
参加費

無料

"入口を開く"デザイン

FREQUENCY
活動頻度

毎月第2・4土曜日

Activeにて募集 / 多世代が混ざる

TARGET

子ども・保護者 / 不登校・ひきこもりの若者 / 障がいのある方 / 地域住民



DESIGN PRINCIPLE

ユニバーサル農園として、
誰もが**主役**になれる
仕組みづくり。

22

そだて菜の日常——多世代が混ざる、農の居場所

毎月第2・第4土曜日——子ども・若者・障がいのある方・地域が、一緒に土を触る。

PRINCIPLE "やること"を細かく用意するのではなく、土と季節と道具を並べて待つ——主役は、その日来た人。



ACTIVITY 01 — HARVEST

芋掘りの日



ACTIVITY 02 — MIXED AGES

多世代で過ごす

子どもが、土の中から自分で掘り出す——最初の"できた"
手が汚れる、想像より大きい、想像と違う形——計画されていない発見が、その日の主役を決める。

"教える人/教わる人"は、その日に入れ替わる
若者が子どもに鉄を渡し、子どもが障がいのある大人に笑いかける——役割が固定されない場の力。



03 — DAILY WORK

日々の手仕事



04 — SHARING FOOD

採れたものを食べる

A PLACE TO BELONG

毎月2回——通う場所が、
地域にいる理由になる。

TARGET——子ども・保護者／不登校・ひきこもりの若者／障がいのある方／地域住民——誰でも、いつでも。

23

みんなの菜園

NEW PROJECT 2026

(農山漁村振興交付金(都市農業機能発揮対策)を活用)

名古屋型アーバンファーマーリング構想と連動した、コミュニティ農園

START
開始年

2026

名古屋型アーバンファーマーリング構想と連動

FEE
参加費

無料

門戸を最大限に開く

FRAMEWORK

担い手育成のしくみ

アグリマスター
× アグサポ × モグサポ

2026 FIVE ACTIVITIES

01

運営委員会の組織化

名古屋市住宅供給公社
中川区社協等と連携

02

調査・専門家への相談

ユニバーサルデザインを
取り入れた設計を検討

03

プロトタイプ農園の設置

1ヶ所の拠点を立ち上げ
運営体制を整える

04

農作業ボランティア体制

人・農業プランから
"アグサポ"を育成

05

WS支援ボランティア育成

食を担う"モグサポ"を
育てる仕組みづくり

"育てる × 食べる × ふりかえる"の循環を、都市の真ん中につくる。

24

FERMENTATION V — 広がる / THE BREATH



CLOSING — OUR VISION

農を通じて、
誰もが安心して
暮らせる地域へ。

都市の農福共創モデルを、
名古屋から全国へ — ゆっくり、確かに。

CONTACT

ぽかぽかワークス

愛知県名古屋市中川区 / 代表 工藤 勉

REPRESENTATIVE

認定農業者（個人・法人）
JA なごや 正組合員



◎ 仕込む — ◎ 贈す — ◎ 届ける — ◎ 実る — ● 広がる
— POKAPOKA WORKS / AGRICULTURE + WELFARE + FERMENTATION —

25